

外装薄塗材E（砂壁状・吹付け）工法例

工 程	塗料その他			日本ペイント 商品名	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数
	規格番号	規格名称	種類			
下地調整	15.6.5による。					
1 下塗材	JIS A 6909	外装薄塗材E 下塗材	—	(1液・水系) ①水性透明シーラー 水道水 100%	0.1以上	1
2 主材	JIS A 6909	外装薄塗材E 主材	—	(1液・水系) ①リシン 水道水 5~8%	1.0以上	2

* JIS A 6909 外装薄塗材Eの規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909適合仕様となります。)

●下塗材（既存塗膜の状態や下地の種類等により使用できない場合もあります。）

①水性ホワイトシーラー（1液・水系）

①水性カチオンシーラー（透明・ホワイト）（1液・水系）

①浸透性シーラー（新）（2液・溶剤系）

・ファイン浸透シーラー（透明・ホワイト）（2液・弱溶剤系）

外装薄塗材E（ゆず肌状、さざなみ状※・ローラー）工法例

工 程	塗料その他			日本ペイント 商品名	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数
	規格番号	規格名称	種類			
下地調整	15.6.5による。					
1 下塗材	JIS A 6909	外装薄塗材E 下塗材	—	(1液・水系) ①水性透明シーラー 水道水 100%	0.1以上	1
2 主材	JIS A 6909	外装薄塗材E 主材	—	(1液・水系) ①リシンR 水道水 0~3%	0.6以上	2

※当社の外装薄塗材Eローラー仕上げ用「リシンR」は砂壁状仕上げとなります。

* JIS A 6909 外装薄塗材Eの規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909適合仕様となります。)

●下塗材（既存塗膜の状態や下地の種類等により使用できない場合もあります。）

①水性ホワイトシーラー（1液・水系）

①水性カチオンシーラー（透明・ホワイト）（1液・水系）

①浸透性シーラー（新）（2液・溶剤系）

・ファイン浸透シーラー（透明・ホワイト）（2液・弱溶剤系）

(3) 防水形外装薄塗材Eは、次による。

(ア) 材料の練混ぜは、(1)(7)による。

(イ) 下塗りは、(1)(イ)による。

(ウ) 増塗りは、出隅、入隅、目地部、開口部回り等に、はけ又はローラーにより、端部に段差のないように塗り付ける。

(エ) 主材塗りは、次による。

(ア) 基層塗りは、だれ、ピンホール及び塗残しのないよう下地を覆うように均一に塗り付ける。

防水形外装薄塗材E（ゆず肌状、さざ波状・ローラー）工法例

工 程	塗料その他			日本ペイント 商品名	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数
	規格 番号	規格名称	種類			
下地調整	15.6.5による。			—	—	—
1 下塗材	JIS A 6909	防水形外装薄塗材E 下塗材	—	(1液・水系) ① 水性カチオンシーラー 透明 無希釈	0.1 以上	1
2 増塗材	JIS A 6909	防水形外装薄塗材E 主材	—	(1液・水系) ① DANシリコンセラR 水道水 0~6%	0.5 以上	1
3 主材基層	JIS A 6909	防水形外装薄塗材E 主材	—	① DANシリコンセラR 水道水 0~6%	0.7 以上	1~2
4 主材模様	JIS A 6909	防水形外装薄塗材E 主材	—	① DANシリコンセラR 水道水 5~10%	0.2 以上	1

* JIS A 6909 防水形外装薄塗材の規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909適合仕様となります。)

●下塗材（既存塗膜の状態や下地の種類等により使用できない場合もあります。）

①**水性カチオンシーラー（ホワイト）**（1液・水系）

①**ウルトラシーラーⅢ（透明）**（1液・水系）

①**浸透性シーラー（新）**（2液・溶剤系）

①**ファイン浸透シーラー（透明・ホワイト）**（2液・弱溶剤系）

・ 1液ファインシーラー（1液・弱溶剤系）

※新設の押出成形セメント板、GRC板などの場合は、**浸透性シーラー（新）**、**ファイン
浸透シーラー（透明・ホワイト）**を使用してください。

(4) 外装薄塗材Sは、次による。

(ア) 材料の練混ぜは、仕上塗材の製造所の指定する量の専用薄め液で均一になるように行う。

(イ) 下塗りは、(1)(イ)による。

(ウ) 主材塗りは、(1)(ウ)(a)による。

(5) 内装薄塗材C及び内装薄塗材Lは、次による。

(ア) 材料の練混ぜは、仕上塗材の製造所の指定する水の量で均一になるように行う。

なお、練混ぜ量は、仕上塗材の製造所の指定する可使時間以内に使い終わる量とする。

(イ) 下塗りは、(1)(イ)による。

(ウ) 主材塗りは、次による。

(ア) 吹付けの場合、(1)(ウ)(a)による。

(ブ) ローラー塗りの場合、(1)(ウ)(b)による。

(シ) こて塗りの場合、(2)(ウ)(c)による。

(6) 内装薄塗材S i 及び内装薄塗材Eは、次による。

(ア) 材料の練混ぜは、仕上塗材の製造所の指定する水の量で均一になるように行う。

(イ) 下塗りは、(1)(イ)による。

- (ウ) 主材塗りは、(5)(ウ)による。
- (7) 内装薄塗材Wは、次による。
- (ア) 材料の練混ぜは、(6)(ア)による。ただし、合成樹脂エマルションを使用する場合は、仕上塗材の製造所の仕様による。
 - (イ) 主材塗りは、次による。
 - (ア) 吹付けの場合、(1)(ウ)(ア)による。
 - (ブ) こて塗りの場合、(2)(ウ)(ブ)による。
- (8) 外装厚塗材Cは、次による。
- (ア) 材料の練混ぜは、(5)(ア)による。ただし、溶剤系の下塗材又は上塗材の場合は、仕上塗材の製造所の指定する量の専用薄め液で均一になるように行う。
 - (イ) 下塗りは、(1)(イ)による。
 - (ウ) 主材塗りは、次による。
 - (ア) 吹付けの場合は、次による。
 - ① 基層塗りと模様塗りの2回とする。
 - ② 基層塗りは、だれ、ピンホール及び塗残しのないよう下地を覆うように塗り付ける。
 - ③ 模様塗りは、(1)(ウ)(ア)による。
 - ④ 凸部処理は、模様塗りの後に、見本塗板と同様の模様になるように、こて又はローラーにより押さえる。
 - (ブ) こて塗りの場合、(2)(ウ)(ブ)による。
 - (エ) 上塗材を用いる場合は、上塗りは、2回塗りとし、色むら、だれ、光沢むら等が生じないように均一に、はけ、ローラー又はスプレーガンにより塗り付ける。
- (9) 外装厚塗材S i 及び外装厚塗材Eは、次による。
- (ア) 材料の練混ぜは、(6)(ア)による。ただし、溶剤系の下塗材又は上塗材の場合は、仕上塗材の製造所の指定する量の専用薄め液で均一になるように行う。
 - (イ) 下塗りは、(1)(イ)による。
 - (ウ) 主材塗りは、次による。
 - (ア) 吹付けの場合、(8)(ウ)(ア)による。
 - (ブ) ローラー塗りの場合、(1)(ウ)(ブ)による。
 - (シ) こて塗りの場合、(2)(ウ)(シ)による。
 - (エ) 上塗りは、(8)(エ)による。
- (10) 内装厚塗材Cは、次による。
- (ア) 材料の練混ぜは、(5)(ア)による。
 - (イ) 下塗りは、(1)(イ)による。
 - (ウ) 主材塗りは、(8)(ウ)による。